

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671300236
法人名	社会福祉法人 百合砂
事業所名	グループホーム 百合砂
訪問調査日	平成21年3月2日
評価確定日	平成21年5月8日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	4671300236		
法人名	社会福祉法人 百合砂		
事業所名	グループホーム 百合砂		
所在地	鹿児島県 西之表市 西之表 6095 (電話) 0997-22-1330		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年3月2日	評価確定日	平成21年5月8日

【情報提供票より】(21年2月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 8人, 非常勤 1人,	常勤換算 8,8人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45000 ~ 46500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月12日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2			
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 83,6 歳	最低	51 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上病院、えのもと歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海に見える丘陵地に建てられた開設4年目のこのホームは外観はモダンな作りだが、一步玄関を入ると古民家風で懐かしい雰囲気なのだようホームである。広いホールを中心に居室が造られているため職員の目も行き届く。居室の入り口は玄関になっており、軒先が設けられ、障子風の扉は昔の長屋を想像させられるおもむきがあり、温かみのある手作りの木の表札が出迎えてくれる。利用者はホーム内で気の合った友人宅を訪問しあっておしゃべりをしたりして過ごしている。また、共用空間のリビングから広い庭を眺めると季節ごとに梅や桜の花見も楽しめる。法人の特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、居宅支援事業所も同敷地内にあり、種子島の高齢者福祉を担ってきた。職員の自己研鑽意欲も高く、資格取得、勉強会などの参加も意欲的である。管理者、計画作成担当者も介護等知識、経験が豊富で質の高いサービスを提供している。職員のチームワークも良く、本人や家族との信頼関係を構築している。これまでの実績を活かし、馴れ合いになることなく積極的に地域との交流を促進し、更に充実したグループホーム運営が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域とのつきあいは法人のお祭りに地域の方々も招待したり、地域のボランティアグループの訪問が実現するなど少しずつではあるが、訪ねてきやすい雰囲気作りに努めている。金銭報告は毎月収支報告書のコピーを送付している。職員研修の年間計画は法人の教育委員会にて年間計画がたてられており、職員はしっかりとした研修を受けている。同業者とのネットワーク作りも他事業所と話し合い、引き続き取り組んでいくことを検討中である。栄養チェックは法人の管理栄養士にアドバイスをもらうようにしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組んだ。職員より、個々のケアのあり方を生活歴を掘り下げて見つけ出し、ケアに活かしていきたいとの意見が出るなど、事業所のサービスの質を見直し、向上につながるよう取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	市役所介護保険課職員、包括支援センター職員、民生委員、公民館長、家族代表などの参加を得て、3カ月に1回のペースで開催している。利用者の状況報告、外部評価の結果報告などを行い、社会資源の情報や、地域の催し物の情報をもらったり、ホームのサービス向上に活かしている。また、今後は職員の意識を高めるためにも、交代で全職員が参加できるように検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書にも苦情受付窓口を明記している。電話連絡の際や面会時に気軽に相談できる雰囲気作りに努めている。家族より本人に自室の掃除を手伝わせるようにとの要望が出るなど個々のケアに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校の運動会の見学や敬老会、ゲートボールなどに参加している。また、幼稚園の訪問もあり、こども達との交流もある。地域のボランティアグループが歌や踊りの慰問に来たり、隣接する法人のお祭りに地域の方を招いたり地域との交流を図っている。気軽に立ち寄ってもらえるように、親しみやすい雰囲気の手作りのグループホームの表札を外に掲げ、グループホームへの理解と存在を認識してもらえるように努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員で話し合い作り上げた理念である。玄関横、和室、ホールに掲げてあり、ホーム便りにも3つの理念を順番に掲載している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は常に理念に基づいたケアを日々心がけて行っている。また、理念を念頭において日々のケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会の見学や敬老会、ゲートボールなどに参加している。また、幼稚園の訪問もあり、こども達との交流もある。地域のボランティアグループが歌や踊りの慰問に来たり、隣接する法人のお祭りに地域の方を招いたり地域との交流を図っている。気軽に立ち寄ってもらえるように、親しみやすい雰囲気の手作りの表札を掲げ、グループホームへの理解と存在を認識してもらえるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組んだ。職員より、個々のケアのあり方を生活歴を掘り下げて見つけ出し、ケアに活かしていきたいとの意見が出るなど、事業所のサービスの質を見直し、向上につながるよう取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所介護保険課職員、包括支援センター職員、民生委員、公民館長、家族代表などの参加を得て、3か月に1回のペースで開催している。利用者の状況報告、外部評価の結果報告などを行い、社会資源の情報や、地域の催し物の情報をもらったりし、ホームのサービス向上に活かしている。また、今後は交代で全職員が参加できるように検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービスについての相談や指導を受けたりと機会をとらえて連携をとるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回ホーム便り「ひだまり」を発行し、日頃の暮らしぶりや行事のお知らせなどを連絡している。また、状態変化など、必要に応じて随時電話連絡を行っている。金銭管理は毎月収支報告書のコピーを送付している。職員異動の報告は面会時や年2回の家族会の際に行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書にも苦情受付窓口を明記している。電話連絡の際や面会時に気軽に相談できる雰囲気作りに努めている。家族より本人に自室の掃除を手伝わせるようにとの要望が出るなど個々のケアに反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は利用者にとってダメージになることを理解し、基本的には法人内異動はないようにしているが、やむをえない場合は利用者への心身の負担がないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成の必要性を理解し、法人の教育委員会で年間の研修計画がたてられている。法人内の勉強会は夜にあるので夜勤以外の職員は参加しやすい。また、資格取得の支援も行っており、個々の資質の向上と個性を尊重し、得意分野を活かし、意欲を持って働けるように取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内の他グループホームの職員との交流を兼ねた研修の受け入れも実施している。今後も他の施設との交流を図りながらサービスの向上に努めていきたい意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域性もあり、法人内に、本人、家族と顔なじみの職員もいるなど今まで大きな混乱はなくサービスを開始できている。入居前には必ず自宅を訪問し、面談に十分時間をかけ、話し合っている。また、本人家族に見学にも来てもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護されるのみの立場におかず、野菜作り、郷土のお菓子(角まき)作りや切干大根作りなど教えてもらったり、また、地域の行事と一緒に参加し、思い出話や特技などを聞いて、支えあう関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、家族、居宅のケアマネジャーや主治医から生活歴、健康状態の情報をきき更に、日常の言動と行動から一人一人の思いを把握するように努めている。また、思い込みのサポートにならないように視野を広げ、できること、したいことに応じ、無理のないように有する力を発揮できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の思いや要望、また職員、主治医の意見を集約し、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は特に大きな変化がない時は6ヵ月で見直しを行っている。新しく入居してきた利用者は1~3ヵ月で様子を見て必要であれば見直しをしている。状態変化や入退院後の見直しはその都度行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて病院受診、自宅への外出、外泊、墓参り、理容室への送迎など特別な外出支援を柔軟に行っている。また、遠方の家族の訪問時は、ホームでの宿泊も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。また、同法人内の看護職員に健康管理のアドバイスをもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の意向を受けいれ医療機関との連携の下、状態に即した対応を決めている。決められた方針は職員全員が共有できるようにしているが、ホームとしての指針は作成していない。訪問看護事業所と家族とのあいで話し合いがなされている。		今後はホームができる支援を家族と話し合いながら、家族の安心のためにも指針と同意書の作成を検討することが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのこれまでの歴史を尊重し、誇りやプライドをそこなわないように心がけている。また、記録物は事務所にて保管している。職員採用時の誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づいて一人ひとりが主役であることを念頭にその人のペースで生活できるように支援している。自己決定の困難な利用者には自己決定できるように場面作りを提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に合わせて下ごしらえ、味見、盛り付け、配膳、下膳などを職員とともに行うなど、力を発揮する場面を作っている。また、菜園で収穫した野菜を調理するなど、食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日は決められていない。入浴をためらう利用者には家族に協力してもらい、電話で話をしてもらったり、声かけやタイミングを見計らって入浴してもらうように工夫している。入浴前にはバイタルチェックをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	法人の施設のクラブ活動(ケーキ教室、生花教室など)やレクリエーションに参加している。また、新聞を楽しみにしている利用者もあり、職員と一緒に施設へ取りに行っている。他にも、詩吟、洋裁が得意な利用者もあり、はぎれを利用してランチョンマットを作ってもらったりと楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は散歩、ドライブ、買い物と外出の機会を設けている。時には、裏庭で昼食やお茶をしたりと戸外で過ごすように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解している。常に利用者の所在の確認をし、職員間の連携を密にし、安全に配慮している。居室から庭に出られるが安全対策は万全である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力の下昼夜間想定で避難訓練を行っている。近隣の協力体制もできている。台風に備えての備蓄も有る。地震対策として家具とベッドの位置の見直しを行った。また、応急手当、初期対応の訓練にも参加、AEDの使用訓練も受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取はチェック表にて個々の状態の把握に努め、身体状況に応じて食事形態(ミキサー食、きざみ食、とろみ食)を考慮している。お茶を好まない利用者にはスポーツ飲料で代用したり、栄養バランスは野菜を多く、植物性・動物性たんぱく質などを考慮しながら献立を工夫している。同法人内の管理栄養士にアドバイスももらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のリビングは天窓のついた天井からスタンドグラスを通じてやわらかい光がさしこんでいる。庭に面している場所にテレビとすわり心地のいいソファがあり、庭に目をやると、桜や梅の花見も楽しめる。台所もオープンになっており、利用者が気軽に入りやすい。浴室の脱衣所は畳敷きになっており、トイレも設置してある。モダンな外観であるが、中は古民家風の純和風の作りで利用者が落ち着いて過ごせるようにハード面でも工夫と配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は広いホールを中心に配置されており、入り口には家庭の玄関のように軒と手作りの表札が掲げられている。居室入り口も昔の家庭の玄関のように工夫されている。居室の家具など備え付けはないため、利用者の使い慣れたソファ、椅子、テーブル、ベッド、タンス、ちゃぶ台、冷蔵庫、ラジカセ、位牌などが持ち込まれ、個性のある居室である。気の合う者同士が居室を行き来するなど長屋のような雰囲気である。		